



県立図書館全館復旧に際して

～図書館の役割について～

福島県立図書館長 篠木 敏明



県立図書館は、東日本大震災により大きな被害を受けましたが、本年 4 月 28 日に公開図書室の利用を再開し、6 月 30 日には全館復旧となりました。県民の皆さんには、長らくご不便をおかけいたしました。広い公開図書室において数多くの図書を手にして読むことができるようになりました。

県立図書館では、公開図書室の再開を機に、「東日本大震災福島県復興ライブラリー」と「子育て支援コーナー」を新設しました。

「復興ライブラリー」につきましては、大震災と原発事故の被災県として、それらに関する資料の収集・保存・提供は、県立図書館としての責務であると認識しておりますので、今後とも継続して充実したものとしてまいります。

また、「子育て支援コーナー」につきましても、子育てに関する資料の提供や親子で楽しむ絵本等を紹介することによって、子育て支援を行っている考えであります。

さて、本県を取り巻く状況は、いまだに多くの県民の皆さんが避難を余儀なくされているなど厳しいものとなっております。本県は復興の道のりを歩んでゆくわけですが、このような時だからこそ、人類の知恵が集積された、地域の情報拠点としての「図書館」が、その役割を十分に発揮することが重要であると考えます。

放射線や健康情報、ビジネス、復興関係など、各自治体や県民の皆さんの課題解決への支援を行っていくことが、地域社会の再生に必要な不可欠であると思います。

また、本県の復興を担っていくのは、現在の子どもたちであり、「人づくり」が重要であります。読むことは、学びの基礎であるばかりでなく、読書はその人の人生を豊かなものにするといえます。小さいうちから本に親しむ環境をつくるのが、その後の読書の習慣につながっていくことから、これらの環境づくりに力を入れていく必要があると思います。

これらの取組みは、それぞれの市町村で行われているところですが、図書館や公民館図書室が学校や各団体との連携をより強める必要があると考えます。

県立図書館としても、県民の皆さんが知りたい情報や求めている情報を適切に提供できるように努めるとともに、市町村、学校、大学付属図書館、各団体との連携をより密にしながら、各種施策を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

《福島県立図書館の復旧と支援を振り返る》

《被災と復旧》

平成23年3月11日、震災当日、館内には利用者と職員を含め約80名がいました。地震発生時には、まず、天井等からの落下物からその場で身の安全を確保するよう呼びかけました。次に、危険が想定される場所から一時避難し、本震が収まるのを待って利用者を誘導し、2か所の出入口から屋外退避しました。負傷者は1名。負傷者が軽傷であったことは幸いでした。その後、天候の悪化と続く余震の状況から館内への再入館を危険だと判断し、利用者にはそのまま帰宅していただきました。

《被害状況》

公開図書室は、北側と南側の壁面が、1枚2.5×5メートルの強化ガラス40枚ほどで構成されています。これが4か所で6枚崩壊しました。また、庇が数か所で崩落しました。さらに館内では、天井部に設置されている空調関係の部品(約5kg)が、約150個のうち、60個ほど落下しました。その他、館内の多くで壁や床などにヒビが見られ、敷地内のいたるところで地盤沈下が確認されました。

資料はほとんどが崩れ、特に書架間の狭い書庫にあっては、80cmほどの高さで一面に広がりました。

《復旧作業》

安全性が確認された「こどものへや」から資料整理に着手し、53万冊を擁する書庫の整理は、ボランティア21名にもお願いしました。公開図書室は、天井からの落下物による危険がありましたが、余震の合間を縫い、短期集中を念頭に職員総動員で行いました。また、市町村支援用資料については、被災地支援を意識し震災翌日より3日間で整理しました。

その後、開館準備のため、破損した資料の修理を行うとともに全体的な書架整理を実施し、館内外の放射線量の測定を定期的に行ないました。

4か月後の7月15日に部分開館を実施しました。翌平成24年4月28日には公開図書室の利用を再開、6月30日には全館復旧に至っています。この間、「福島県立図書館における東日本大震災後の復旧・支援体制」を策定し、被災地支援のあり方を明確にしました。再開に際し、「東日本大震災福島県復興ライブラリー」と「子育て支援コーナー」を設置し、新生県立図書館を目指しています。

日付	県立図書館の被災及び復旧状況
平成23年 3月11日	<p>《14:46／福島市震度6弱》</p> <p>【被災状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天井部より空調ダクト関係部品(5kg程度)が60個(150個中)ほど落下。 ・壁面のガラス板(幅2.5m×高さ5m×厚さ2cm)が、4箇所6枚破損。 ・軒天パネル(外部庇)が数カ所で剥離。全体に亀裂と歪みを生じる。 ・館内複数箇所において亀裂及び段差を生じる。 ・駐車場等、図書館周辺の地盤が複数箇所亀裂及び沈下。 ・ライフラインの停止。 <p>【館内の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内には、入館者約50名と職員約30名が勤務。 ・軽傷者1名。(利用者) ・継続する余震と天候悪化から、利用者の再入館を禁止。 ・貴重品関係は職員が回収し、その他については連絡先を確認後、後日渡しとし帰宅を促す。 ・全職員に帰宅指示。(17:00)
	<p>《15:15／福島市震度4》 大規模余震、被害拡大。</p>
	<p>《17:14／福島市震度4》 大規模余震、被害拡大と推測。</p>
3月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は全員出勤。状況確認と周辺整理後、連絡対応職員を残し解散。 ・比較的安全と判断された事務棟を中心に被害状況の確認を行う。 ・市町村支援用資料の排架作業開始。
3月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・生活用水の枯渇に備え、正面貯水池等より水を確保。
3月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・電力復旧。 ・安全性の認められる箇所より復旧作業に着手。 ・市町村支援用資料の排架作業終了。
3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・県内避難所への職員派遣開始。(以後継続対応) ・県災害対策本部への職員派遣開始。
3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館システム及び関係機器についての動作確認が終了。 ・業務システムが稼働。
3月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・電動周密書架の動作確認終了。

3月25日	・建物診断を実施。公開図書室及び事務棟との連絡通路に危険性が認められる。基礎部分は異常なし。（公開図書室への入室と、該当通路の通行を禁止）
3月30日	・県内外の図書館及び関係機関に対し、被災による臨時休館について周知。
3月下旬	・比較的被害の少なかった「こどものへや」の排架作業に着手。（作業期間1週間） ・引き続き、一般資料書庫の資料掻き出し作業と排架作業、及び資料修復作業に着手。（後日、ボランティア21名を動員。作業期間2ヶ月間）
4月1日	・県教育庁社会教育課及び文化財課が第一研修室に移転。（6月8日退館）
4月7日	《福島市／震度5弱》 大規模余震、排架作業中の資料が多数落下。建物被害拡大。
4月10日	・仮の返却ポストを、職員通用口と守衛室前の2箇所に設置。（～7月14日）
4月11日	・破損ガラス（壁面）の第一次囲い作業終了。
4月15日	・ボランティアの活動開始。
4月23日	・軒天パネル（外部庇）の剥離部分撤去作業が終了。
4月29日	・県内児童施設のモニタリング調査へ職員を派遣。（2日間）
5月3日	・建物・設備被害復旧予備調査委託契約締結（～6月3日）
5月9日	・余震の治まり状況から、公開図書室の排架作業に着手。職員総出。（作業期間1週間）
5月18日	・正面玄関前階段及び駐車場等、施設周りの改修工事終了。
5月20日	・館独自に、放射線量の測定を実施。（以後継続実施）
5月23日	・震災を受け、関連資料収集のため「資料収集方針」を一部追加。
5月26日	・図書館振興財団に対して「資料落下防止シート」及び「マップケース」の支援要請。（6月中に物品の搬入が完了）
5月下旬	・資料の排列、状態、所在についての確認作業に着手。また、継続して資料の修復作業を実施。（作業期間3ヵ月）
6月1日	・定期的な放射線量測定を開始。（以後継続実施）
6月下旬	・館独自に汚泥処理を実施。（以後継続実施）
7月1日	・「こどものへや」絨毯のクリーニングを実施。
7月7日	・部分開館のリハーサル実施。
7月13日	・破損ガラス（壁面）の第二次囲い作業終了。
7月15日	<ul style="list-style-type: none"> * 部分開館を実施。（「こどものへや」は通常サービスを実施） ・一般資料については完全開架式によるサービスを実施。（一部資料はエントランスホールに排架） ・職員が資料の出納を行うことで対応。貸出も実施。（一部資料に利用制限あり） ・エントランスホールに、総合案内及び貸出登録カウンター、OPAC6台を設置。複写についても対応。 ・第一研修室を開覧室として開放。インターネット端末機6台を設置。 <p>・「災害を乗り越える！ 私たちのふるさと展」（7月15日～11月30日）及び、「応援メッセージ展」（7月15日～7月24日）を実施。</p>
7月24日	・「福島県立図書館再開記念」「福島県内図書館復興記念」事業として、「記念朗読会」を開催。
8月5日	・建物・設備復旧工事設計委託契約締結（～11月1日）
8月19日	《福島市／震度4》 大規模余震、新たに軒天パネル（外部庇）が剥離。数カ所に亀裂等が生じる。
8月30日	・「東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う貸出資料の亡失・き損の取扱いについて」を制定。
9月1日	・レファレンス業務を再開。 ・全資料の提供を再開。
9月22日	・「福島県立図書館における東日本大震災後の復旧・支援体制」を策定。
10月4日	・夜間開館（19:00まで）を再開。
11月30日	・文部科学省の災害査定により設計・金額が認められる
12月23日	・館内修繕工事による資料の利用制限を踏まえ、個人貸出冊数を10冊から20冊へ増加。
12月28日	・災害復旧工事（建築・設備）の入札を実施、工事請負業者決定。
平成24年 1月4日	・災害復旧工事着手。
2月1日	・現場工事着手。
2月6日	・公開図書室（東側）工事に伴う足場設置のため、資料の一部を利用制限。（～2月10日）
3月12日	・公開図書室（西側）工事に伴う足場設置のため、資料の一部を利用制限。（～3月22日）
4月2日	・公開図書室（西側）工事に伴う足場撤去のため、資料の一部を利用制限。（～4月5日）
4月20日	・館内設備工事完了。
4月24日	・公開図書室のサービス提供再開準備に向け臨時休館。（～4月27日）
4月28日	<ul style="list-style-type: none"> * 公開図書室のサービス提供再開。 ・「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の設置。 ・「子育て支援コーナー」の設置。
6月30日	・全館復旧

《 県立図書館としての支援 》

県立図書館の復旧作業と平行して行った支援事業には、「情報支援」と「資料支援」があります。

情報支援としては、県内の図書館関係施設の被災状況を確認し、生活復興支援情報や震災関連情報と共に、ホームページに掲載し、その後随時更新を行いました。

資料支援としては、被災した市町村支援用資料の整理を迅速に行ない、3月16日には、資料の被災地支援用ができることを周知しました。その後、「京都府図書館等連絡協議

会」からの資料支援を受け、5度にわたり当館の資料支援体制を広報しました。平成24年度には、「仮設住宅及び仮設校への資料支援及び行事支援事業」を立ち上げ、2度にわたり関係機関に周知しました。

また、図書館未設置町村支援のために運行していた移動図書館を活用し、図書館を有する自治体の仮設住宅等への巡回を行っています。平成24年5月までに、12ヶ所に4,433冊を提供しました。

日付	県立図書館の支援実施状況
平成23年 3月15日	・電力の復旧とともに、電話にて県内図書館及び関係機関の被災状況を確認。データはホームページ上にアップ。また、震災関連情報（生活情報）のリンク集を作成し情報提供に努める。（以後継続更新）
3月16日	・市町村支援用資料を活用した避難所等への図書支援①（被災状況等から支援対象を考慮し、電話により資料支援環境にあることを周知）
4月1日	・市町村支援用資料を活用した避難所等への図書支援②（移動図書館「あづま号」の巡回通知に際し、避難自治体に対して資料支援環境にあることを周知）
4月5日	・県内最大の避難所である「ビックパレットふくしま」（郡山市）に資料1,000冊を貸出。（後日、同施設内に避難していた富岡町と川内村が同資料を活用し、合同による仮図書室をオープン。～8月12日）
4月8日	・「図書館活動支援貸出（学校図書館支援貸出）」の再開。
4月13日	・「協力車」の運行開始。
4月15日	・須賀川市立須賀川第一小学校に対し、「学校図書館活動支援用セット」を6セット（336冊）貸出。
4月19日	・移動図書館「あづま号」の運行開始。
4月21日	・綾川村立綾川中学校に対し、「学校図書館活動支援用セット」を5セット（199冊）貸出。
5月7日	・福島市立佐原小学校（被災地の児童が多く通う）に対し、「学校図書館活動支援用セット」を2セット（101冊）貸出。（spff事業との連携。）
5月16日	・市町村支援用資料を活用した避難所等への図書支援③（二次避難が進んだことに伴い、避難先市町村（図書館、公民館等）を対象に、資料支援が可能であることを周知。）
5月20日	・市町村支援用資料を活用した避難所等への図書支援④（「図書館活動支援貸出」を広義的解釈し1冊単位での貸出が可能であることを周知）
5月23日	・京都府図書館等連絡協議会より、資料9,712冊（一般書6,426冊、児童書3,250冊）の寄贈を受ける。
7月15日	・対象を全県下に拡大し「個人宅配サービス」を再開。
9月18日	・市町村支援用資料（支援資料を含む）を活用した避難所等への図書支援⑤（避難先に設置された仮設校（小中学校）に対して資料支援が可能であることを周知）
10月18日	・浪江中学校に対し203冊の資料を提供。（資料は、京都府図書館等連絡協議会からのもの）
11月24日	・広野中学校に対し626冊の資料を提供。（資料は、京都府図書館等連絡協議会からのもの）
平成24年 2月7日	・日本図書館協会に対し、仮設住宅支援用簡易書架の提供を要請。
2月16日	・「仮設住宅及び仮設校への資料支援事業」について、該当教育委員会へ通知。（第一次） ・日本図書館協会に対し、仮設住宅支援用資料の提供を要請。
2月17日	・葛尾村仮設住宅へ、500冊の資料を提供。（資料は、京都府図書館等連絡協議会からのもの）
2月25日	・日本図書館協会より、986冊の寄贈を受ける。
3月21日	・「仮設住宅及び仮設校への資料支援及び行事支援事業」について、該当教育委員会へ通知。（第二次）
3月28日	・日本図書館協会より、1,768冊の寄贈を受ける。
4月2日	・日本図書館協会より、簡易書架20セットの寄贈を受ける。
4月10日	・浪江町仮設住宅（上鳥渡）へ、200冊の資料を提供。（資料は、京都府図書館等連絡協議会及び日本図書館協会からのもの）
4月13日	・浪江町仮設住宅（笹谷）へ、400冊の資料を提供。（資料は、京都府図書館等連絡協議会及び日本図書館協会からのもの）
4月24日	・葛尾村仮設住宅（三春町）への移動図書館車巡回を実施。410冊の資料を貸出。
4月27日	・楮葉町仮設住宅（高久第八・いわき市）へ、202冊の資料を提供。（資料は、京都府図書館等連絡協議会及び日本図書館協会からのもの）
5月11日	・飯館村仮設校（川俣町）への移動図書館車巡回を実施。256冊の資料を貸出。

「東日本大震災 福島県復興ライブラリー」 開設のご案内



福島県立図書館では、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故と、それに伴う県内の被災・復興についての関連資料を収集してまいりましたが、これらの資料を整理し、「東日本大震災 福島県復興ライブラリー」を開設いたしました。

平成 24 年 4 月 28 日現在、貸出が可能な資料数は 1,731 タイトルとなっており、16 のテーマに分けて資料を配置しております。

県立図書館では、ふるさとの復興に寄与できるよう、今後とも「東日本大震災 福島県復興ライブラリー」の充実に努めてまいりますので、どうぞご利用ください。

※資料の一覧は、当館ホームページに掲載しています。

※資料は随時収集し、設定テーマもニーズによって変更する予定です。

東日本大震災 福島県復興ライブラリー 全 16 テーマ

- ①過去の災害
- ②地震／津波
- ③原子力問題／過去の原発事故
- ④福島第一原発事故
- ⑤文学／体験記
- ⑥メディア／報道／写真集
- ⑦各組織の震災対応
- ⑧法律／補償
- ⑨医学／健康
- ⑩放射線／除染
- ⑪農林水産業／動物
- ⑫復興／防災
- ⑬エネルギー
- ⑭雑誌
- ⑮子ども向け
- ⑯その他／視聴覚資料

震災資料ご寄贈のお願い

福島県立図書館は、ふるさと「ふくしま」に関する情報の収集機関として、また「東日本大震災」並びに「東京電力福島第一原子力発電所事故」という未曾有の災害の被災当事者として、これらに関する資料を収集・保存し、後世に残すことが使命であると考えております。

つきましては、皆様には下記資料の寄贈にご協力くださいますようお願いいたします。



※寄贈いただく場合は、2部（保存用・貸出用）寄贈いただけると幸いです。

※寄贈の手続き等について、詳しくは当館までお問い合わせください。なお、寄贈いただいた資料の取扱いについては、当館に一任くださいますようお願いいたします。

こどものへやで “わくわく科学”

現在、こどものへやでは福島大学運営の「ふくしまサイエンスぷらっとフォーム (spff)」と連携し、図書館で子どもたちの“科学の芽(目)”を育てる活動を行っています。

“わくわく科学コーナー”を特設し、様々な科学イベントに合わせて資料を展示したり、室内のいろいろな所に月球儀や顕微鏡などの科学グッズを配置して、科学への興味を促すきっかけ作りをしています。また、情報紙『児童図書研究室ニュース』『LITTLE BIG』でも、科学読み物の紹介を行っています。

今後も、子どもたちが科学をより身近に感じることができるような取組みをしていきたいと考えています。



《2012年5月21日金環日食にあわせて
行った展示の様子》

◎ 図書の寄贈（平成23年度）

次の団体より図書の寄贈がありました。この他、被災地支援として多くの方から多数のご支援をいただきました。福島県立図書館をとおして福島県民へお届けします。

■ 京都府図書館等連絡協議会

図書約1万冊

■ キハラ株式会社

ブックトラック 30 台

■ (財)福島県教職員互助会

一般図書・児童書 計 3043 冊(5,000,000 円相当)

■ 福島信夫ライオンズクラブ

児童図書 92 冊(130,000 円相当)

地球儀1個(70,000 円相当)

■ 国際ソロプチミスト福島

児童図書 59 冊(100,000 円相当)

■ 日産自動車・福島県日産会

「第25回ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品童話賞・

絵本賞の2作品を県内図書館・公民館分各 180 冊

■ 国際ゾンタ福島ゾンタクラブ

児童図書 74 冊(100,000 円相当)

■ 新潟県図書館友の会

児童図書 100 冊(125,886 円相当)

■ 図書館振興財団

資料落下防止シート マップケース

■ 社団法人 日本図書館協会

図書 2,754 冊

簡易書架 20 セット

■ 東日本大震災で被災した子どもに本を贈る「いっしょだよ」

キャンペーン(財団法人大阪国際児童文学館、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団主催)

図書 172 冊と装備品(500,000 円相当)

第 62 卷 (通巻 266 号)

平成 24 年 6 月 30 日発行

発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山 1 番地

TEL:024-535-3218(代) FAX:024-535-3226 (企画管理部)

ホームページ URL : <http://www.library.fks.ed.jp>

